



## 同窓会会報

発行：獨協埼玉高等学校同窓会 発行人：玉山 栄一  
〒343-0037 埼玉県越谷市大字恩間新田字寺前316  
☎048-977-5441 FAX048-977-2031  
e-mail: dosokai@dokkyo-saitama.ed.jp  
URL http://www.dokkyo-saitama.ed.jp/

## 第六回同窓会総会・創立五周年記念講演会



去る五月十日、第六回同窓会総会が開催されました。本年は同窓会設立五周年の節目でもあり、学校を離れて南越谷の越谷サンシティを会場とし、多数の同窓生の皆様をお迎えしました。総会では昨年度事業・会計報告、今年度事業計画・予算案に関する議案等が上程され、同窓生のご理解のもと可決されました。

総会に引き続き、今回は同窓会創立五周年を記念して、元校長の中島文夫先生（昭和六十三年〜平成十年在任）による特別講演会を開催しました。「子供を育てる」と題し、子供の発育と親の愛情の注ぎ方との関連などを提示しながら、人間形成の重要性をご教示いただきました。子育てに追われる同窓生の多い中、大変興味深い内容の講演をいただいた中島先生には、この場を借りて御礼申し上げます。

講演会  
創立五周年記念



▲中島文夫元校長

そして参加者一同は毎回恒例となった懇親会へ。多くの先生方や同窓生のほか、獨協学園からも多数のご来賓を迎えて懇談が進みました。同窓生、とりわけ一期生は卒業後二十年目を迎えたこともあり、再会した先生方と共に感慨ひとしおの場面も見られました。



懇親会も中

盤に差し掛かると、場内の照明が暗くなり、Mr. Color、Mr. Colorによるイリュージョンがスタート！「笑っていいとも！」などブラウン管で接する機



▲(左から)Mr.color、紀内先生(右から2人目)井原先生

会の多いマジシャンだけあり、参加者は井原先生の空中浮揚や箱の中に入った瀬戸先生が姿を消してしまいういリュージョンや絶妙なトークに引き込まれて、会場内の熱気は高まりました。そんな中、紀内先生による飛び入り(?)マジックも披露され、会場内の参加者から笑いを誘う一幕もあり、盛会のうちに懇親会を終えることが出来ました。

先に申しあげた通り、獨協埼玉高等学校同窓会は創立五周年を迎えました。新たな発展を目指す母校と、各界でご活躍される卒業生とのパイプ役として、本同窓会はこれからも積極的に母校の情報を発信していく所存です。同窓会へのご希望、ご意見等も、事務局もしくは各幹事までお気軽にお寄せください。同窓生の皆様ひとりひとりが主役となれる同窓会を目指すことを、幹事一同願っております。



同窓会会長  
玉山 栄一

「人間に対する旺盛な探求心」、これがすべてにおいてのトップに求められるものかもしれません。トップは人を命令して使うのではなく、人と人とを、いかに組み合わせるかがもっとも大切な事ではないでしょうか。一人ひとりの生き方、個性を知られば、もっと人を活かせるし、自分自身も豊かになるはず。最近では、「カネ・モノ・ヒト」の世の中になっていきますが、本来は「ヒト・モノ・カネ」であるべきで、すべては人に始まり人に終わるのだと思います。

もう一つ大切にしたいものがあります。それは「無所属の時間」を持つ事です。我々は日常において、社会のどこかに属し、それにより評価したりされたりしている。そうした日常から解放された空間を意識し、人より多く「無所属の時間」を持ち、人間的に豊かな非日常の世界を持った人間こそが、挫折や逆境に強いはず。そんな「無所属の時間」を持ち、骨太な人間になってもらいたい。同窓会という場所はそのような場所、空間となりうるはず。お陰様で、同窓会も多くのすばらしい幹事が集い、そんな場所を用意したいと知恵を絞ってくれています。彼ら自身も、そんな活動の中で新しい自分を発見しているのではないのでしょうか。これから1+1が4にも、8にもなるような骨太な同窓会となるよう努力を続けるつもりです。学校と同窓会が結びついて、また違った何かが生まれれば幸いです。ご期待ください。

校長  
石井 征次

昭和55年(すでに昭和という年号すら懐かしい)にスタートした我々が獨協埼玉高等学校も平成16年4月に創立25周年に入ります。そこで、周年事業をいつ行うかということなのですが、あれこれと準備の都合などもあって、まるまる25年を経過した平成17年度中に設立25周年の周年事業を行うことにしました。

周年事業の目玉は、第2体育館の建設です。中学校も開校して、現在の体育館ではいかにも手狭で、体育の授業やクラブ活動にも支障が生じかねません。そんなわけで、なんとしても平成17年度中に第2体育館を建設する予定で準備に入っております。質素で機能的な体育館と考えてはいるのですが、それでも少なからざる費用が必要となります。同窓会や卒業生諸兄諸姉には別途寄付のお願いなど申し上げることになるでしょうが、その際は宜しくご協力のほどお願い申し上げます。

それと、同窓会や後援会、PTAの皆様にもご協力願って、可能な限り賑やかに25周年の祝賀会を開催しなければなりません。出来ましたら、体育館の竣工披露もかねて行いたいと考えております。どうぞ楽しみに待っていてください。

獨協埼玉も中学・高等学校となってもう3年目に入ります。同窓生諸兄諸姉におかれましては、今後とも母校の発展のためにご協力、ご尽力いただければ幸いです。

13期生  
竹内 友洋

13期生、獨協埼玉で教員になって2年目の竹内友洋です。獨協埼玉の中学生と初めて会ったのは、今の中学3年生が受験したとき。生徒たちは小学6年生の1月、感想は「小さいなあ。」あと、素直で良さそうな子供ばかりでした。

当時のぼくは非常勤講師で、4月から淑徳東鴨の専任が決まっていた。でも、「この子たちとやってみよう。」と心底そう思ったのを覚えています。縁あって獨協埼玉に戻れたとき、そのときの子たちの担任をすることになって、嬉しかったです。昨年は初めての中学生の担任でしたが、不安よりワクワクの方が大きかったです。

昨年一年間、本当に楽しい思いをしました。中学生とのやり取りというのは緊張感があります。もちろん取るに足らない理屈をこねて嫌な思いをすることもありますが、それでもまっすぐな気持ちで問いかけてくる、その問いに相對するうちに自分がまっすぐになる。教師冥利に尽きるというか、担任としてホームルームを運営する楽しみはとて大きいのです。

4月から、高校生の担任をしています。誤解を恐れずに言えば、中学生を担任するよりも、仕事は楽です。しかし、人格が完成される直前の彼らのわずかな心の揺れに気づくことが多くなりました。中学生は不安定で、いつもゆらゆら。高校生は自分を大人と認めていて、それでも自分の中に思いがけない自分を発見して、揺れる。そういうことがあるのです(自分にもあったかな)。「この仕事深いなあ。」と思います。

獨協埼玉にぜひ一度遊びに来てください。

## 平成14年度決算書

収入の部		支出の部	
★20期生終身会費(359人)	3,590,000	★会報費(会報・総会八ガキ発送)	1,664,975
★H13年度より繰越金	11,510,913	★通信費(後納郵便等)	66,040
★既卒者終身会費	500,000	★文化祭活動費	12,010
★雑収入	9,938	★体育祭飲み物代	157,500
★預金利息	381	★幹事会費	40,000
		★次年度繰越金	13,670,707
合計	15,611,232	合計	15,611,232

## 平成15年度予算(案)

収入の部		支出の部	
★21期生終身会費(350人)	3,500,000	★会報費	1,800,000
★H14年度より繰越金	13,670,707	★通信費(後納郵便等)	150,000
★預金利息	293	★事務費(体育祭飲み物代含む)	300,000
		★総会費	400,000
		★慶弔費	100,000
		★文化祭活動費	50,000
		★幹事会費	100,000
		★企画費	500,000
		★予備費	13,771,000
合計	17,171,000	合計	17,171,000

※平成14年度より同窓会から体育祭に飲み物を提供することとなりました。



# 卒業生インタビュー part 5

昭和大学歯学部 生化学 助教授  
1期生 片桐 岳信



**小平** 片桐さんが薬学を目指した動機は何ですか。

**片桐** これは全く単純で、遺伝子の研究をしてみたいと思ったこと、須藤先生の「薬学がいんじゃないか？」という一言のためです。

高校3年の中頃は、漠然と理系に進みたいという気持ちはありましたが、取り立てて何かの職業に就きたいという希望はありませんでした。むしろ友人達には、幼稚園の先生かケーキ屋になると半分以上は本気で話していました。

**小平** それはどうして薬学に？

**片桐** 丁度その頃、テレビのニュースや新聞で、「生命は遺伝子という暗号によって決められている」、「大腸菌と人の遺伝子を組み替えることができる」、というようなニュースが目につくようになりました。加倉井先生の授業でも遺伝子に関するメンデルの法則などを習い、試験は全く解けなかったのですが、何かとでもワクワクしたことを覚えていました。

こういったことが非常に面白いと思いい、遺伝子のことを勉強できる方面に進みたいと思いました。それで、3年生の夏頃だったと思いますが、進路担当の須藤先生にご相談したところ、「薬学なら、そういうことをやっているのではないか。北里大学は研究設備がいっぱい。」といわれ、その日のうちに北里大の薬学に進むことを決めました。

**小平** 現在は歯学部に入らっしゃいますが、薬学から歯学部に移った経緯はどんなものだったのですか。

**片桐** 大学に入学した動機が「遺伝子を勉強したい」ということだったので、毎日の薬剤師を目指した講義を受けるこ

とはかなり苦痛でした。特に、周囲は薬に興味があるのに、自分は全く興味が持てないこともショックでした。それで、とにかく早く遺伝子をさわりたいと思い、皆が4年生で行う卒業研究まで待たずに、3年の冬に研究室を回って遺伝子の研究ができる場所を探しました。幸い、遺伝子の研究をしている教室が見つかり、翌日からお世話になりました。今思い返せば初歩的な実験ですが、とにかく楽しい毎日、毎日大学に行っても講義ではなく研究室にばかりいました。

それで大学院に進学しました。このときの研究テーマが、私の人生を大きく変えたことになりました。私のテーマは、「骨粗鬆症のような骨の病気に對する薬を作る」、ということでした。しかし、私が所属していたのは微生物の部屋で、骨や歯のような組織を知っている方はほとんどいらっしゃいませんでした。実は、当時、薬学部で骨を研究対象としていたところは見あたらず、世界的にも骨の研究の中心は医学部の整形外科や内科、あるいは歯学部だったのです。

そこで、骨を専門に研究しているところに行つて、一からきちんと勉強しなおそうということになり、大学院の間の1年半だけという約束で、現在所属している歯学部で国内留学させてもらったのです。

**小平** 現在は具体的にどんな研究をなさっているのですか。

**片桐** そうですね、簡単に言うと「骨ができる仕組みを明らかにする」ということです。基本的には、15年も前の研究テーマを続けていることになりました。

最近、新聞などでも骨の話題が取り上げられるようになったのでご存じの方もいるかもしれませんが、骨は細胞が作って、細胞が壊れています。皮膚や毛などが毎日代謝されているというのは、多くの方が知っていると思いますが、実は、硬い骨も全く同じです。

私達の骨の量を調べると、赤ちゃんの時から成長とともに骨も増えますが、およそ30歳でピークを迎え、その後は下り坂となって減少を続けます。骨粗鬆症という有名な病気は、作る量よりも壊す量が増えてしまったために、骨がスカスカになってしまいう病気です。私達が老人の方をイメージするとき、背中が丸まって腰をかがめた人を出しますが、それは脊椎が骨折した骨粗鬆症の典型的な例です。もう一方で一般によく知られていることに、骨折しても直るといことがありますが、つまり、骨には回復力があるのだけれど、骨粗鬆症のような場合にはこの力が上手く発揮されていないことになりました。

私が主な研究テーマにしているのは、後者の骨を作る骨芽細胞と呼ばれる細胞です。一体この細胞はどこからやってきて、どんな刺激で骨を作り始めるのか。私達の体には約200個の骨がありますが、これらがどうやって調和を保ちながら、無秩序にならずに骨を作ることができているのか。どうして、骨折した部分が直るのか。こういったことは、多くの方が不思議に思っていることなのに、実は答えが殆ど分かっていません。もちろん、現象論としては古くから理解されているのですが、今の科学は、それらを一つ一つの分子の働

きで説明できるレベルではありません。私は、この骨ができるという生命現象を調節している機構はどんなものなのか、それをタンパク質や遺伝子のレベルで説明したいと考えています。多くの生命現象は、やはり遺伝子によって規定されていると思います。結局、20年前に「遺伝子の研究」を夢見たことが、今も続いていることになりました。成功するかどうか分かりませんが、今まで15年ほど研究してきて、少しだけ骨が分かるようになってきました。

特に、ここ数年は世界的な規模で急速に骨の研究が進歩しているのです。近い内に骨がある程度説明できる日が来るのではないかと期待しています。まだ分からないことが沢山あるけれど、ひよっとすると、もうすぐ分かるかもしれないという時代に、自分が骨の研究をしていることは相当エキサイティングなことだと思っています。

**小平** 研究の成功を祈っています。今日はありがとうございました。

## <略歴>

1983年 獨協埼玉高等学校 卒業  
1983年-1987年 北里大学薬学部製薬学科  
1987年-1992年 北里大学大学院薬学研究科「博士(薬学)」  
1992年-1996年 昭和大学歯学部生化学 助手

1996年-1997年 米国テキサス大学 M.D.アンダーソン癌センター 分子遺伝学部門 研究員  
1997年-1998年 米国マサチューセッツ総合病院 内分泌部門 研究員  
2001年-現在 昭和大学歯学部 生化学 助教授



## 同窓会創立5周年記念講演 「子供を育てる」

同窓会創立5周年を記念して、5月10日の同窓会総会と同時に第2代校長中島文夫先生に「子供を育てる」というテーマで講演をしていただきました。その一部をご紹介します。



## 「子供を育てる」

という可能性もあります。だから、親の願望どおりに育てようとしても必ずしもうまくいかない、ということになります。また、子が親を喜ばせようとして親の望みどおりにする場合もありますが、それが本心からでない場合には、将来のひずみや爆発の原因ともなりますから、本心から望んでそうしているのを見極めることが必要です。子の才能の芽が現れるまで観察し、芽を見極め、適切な指導を受けられるように方向付けすることが親としての賢明なやり方と言えます。

### 自己主張しつつ他人と衝突しない人物に育つよう配慮する

人間として社会生活を送るうえで一番重要で、最も早い時期から取りかかるべきことは、円満なコミュニケーションをもてる人物になるよう配慮することです。子は親を手本にして育ちますから、まず親がそういう人物になるべく努力することが必要です。ただ、完璧な親はいませんから多少のひずみは出ます。しかし、子供は自ら修正し、親の欠点を知ったうえで上手に親に接するという一段高い境地に達する（親を超える）ことができるようになります。だからあまり心配はいりませんが、かといって完璧に近づく努力を怠ってはいけません。

### 子は親の願望どおりに育つと思ったら大間違い

子供は誰でも何かしらよいもの（才能）をもって生まれてきます。その才能は、適切に育成されて初めて分かるものであって、才能があってもまだ発揮されていない（つまり、まだ適切な指導を受けていない）

## あの先生は今……

今回は、1・2期生の時に世界史で教授を執り、3年目からは第2代教頭として13年間活躍された埴原護先生に、大宮の某料理店でお話を聞くことが出来ました。



埴原護先生

友野 先生はおいくつの時にこの学校へ来られたのですか。

埴原 私の母校自白の教員で高校の同期生（金前教頭）からのご紹介でこの学校に来ることになり、成城高校を退職し37歳のときに着任しました。

友野 一面田んぼで道中蛙だらけの田舎だったのでびっくりされたんじゃないですか。

埴原 成城の時は通勤時間が片道2時間もあって大変だったけど、この学校に来て車で片道20分になったから来るのが楽になったですよ。

友野 着任当初は世界史を教えていらっしやいましたね。

埴原 そうですね。1・2期までは世界史の授業で顔を合わせていたと思います。3年目の40歳から教頭をやることになりました。

友野 学校長への要請があったと聞きますが。

埴原 ええ、矢嶋仁吉校長の後に就任を打診されたことがありました。自分は50歳で引退して、自給自足農業をやりたいかたという人生設計がありましたので、大変ありがたいお話だったのですがお断りしました。実際、51歳から2年間は子供も手が掛からなくなつたので福島に単身赴任で土地を耕していました。現在も教員仲間が遊びに来てくれますよ。

友野 本心にうらやましいお話ですね。現在は何をされているのですか。

埴原 東京にある赤羽病院で副理事長をしています。経営者である父・兄が亡くなった後、医療関係は五兄が現在の院長を

しておりますので、自分は財務・経営全般を担当しています。

友野 ところで埴原先生の教員時代の思い出をお聞きたいのですが。

埴原 学校設立準備段階は、週1回の前任校の研修日に来ていたから大変だったけど、その分学校を一から作ることが出来て楽しかった。ただ、1・2期生が予定の人数が集まらず、400名分の補助金を出していた県庁から怒られたこと、政策的に予定生徒数が集まらなかったことで故理事長から厳しくお叱りを受けたことなどを強く記憶しております。

友野 他には何か？

埴原 生徒の親は全員、自分の子供が獨協大学に進学できると聴いていたでしょうが、実際1期生が2年生の段階になって慌てて大学側と規定を話し合い、卒業までに間に合わせた覚えがありますね。本当に大変でした。

友野 そんな話初めて聞きました。お陰様で私達も大学に進学できました。最後は最後に今の先生方にお一言願います。

埴原 昔もそうでしたが、今も同じように自由で民主的な風潮、のびのびと勉強を教えられる体制が整っていると聞いています。石井校長以下教職員の努力の賜と思っています。出来ればこの学校のことをよく知ってほしい卒業生にどんどん先生になつてもらって、母校に戻ってきてほしいと思います。

友野 本日はお忙しいところありがとうございました。

友野 本日はお忙しいところありがとうございました。



第4回  
あのかしきなつ

野球部の球譜

— 野球が好きならそれだけで仲間だ! —

「もっとボールにむかっていけー!」監督、佐藤先生の声が響く野球場。夏の大会を1ヶ月後にひかえ、監督のノックにも力が入っている。部員たちのユニフォームも真っ黒だ。現在、部員はマネージャーも含めて52名の大所帯である。監督は佐藤先生、水久名誉部長に石井校長、コーチは私を含め3人とスタッフも充実してきた。充実してきたといえ、野球場の設備も昔とは随分かわった。なんといっても20年以上使い続けてきたバツ

同じことです。つまり、人間関係の中で他人をディスカウントする(本来の価値よりも少ない価値として評価し、扱う)ことなく、同等の人格として重んじるということです。他人と比較して、自己主張のために相手を否定したり、相手を褒めるために自分の側を否定するなどは、とかくやりがちなことですが気をつけなくてはいいけません。相手を正しく評価し、一方で自分の譲

れない点は外さない。そこから他人との円滑なコミュニケーションの知恵が生まれてくるはず。それができる親なら子供は順調に育つでしょう。

※紙面の関係上、具体例などを割愛いたしました。詳しくは同窓会HPをご覧ください。

ティンゲゲージが今年、リニューアルしたということである。練習試合の度に重いゲージを部員全員で動かしていたことを懐かしく思うOBも多いことであろう。また、父母会の協力でバックネット裏に観客席がもうけられたこと、スピードガンを購入してもらったことも現在の部員たちの励みになっている。

さて、獨協埼玉高校はまもなく25周年をむかえる。野球部は初年度から活動しており、野球部も創部25年ということになる。野球部にかぎらず高校の部活動というものは、毎年部員が入れかわるので25年もの歴史があると、その年々のチームの個性、雰囲気というものがあふれる。部員の数、ひとつをとっても現在のようには50名を超える年もある。たまたま10人で活動を行っていた年もあった。また、創部当初はたった24球のボールで練習していたそうである。しかし、獨協埼玉高校の野球部には昔



も今もかわらない伝統というものがある。それは、後輩よりも先輩の方が先に行動を起こすということである。例えば、練習終了後、グラウンド整備を行う時に「トンボ」をもって真っ先にとびだしていくのは3年生である。遅れて2年生、1年生が「先輩、かわりませう」という具合で無言のうちに仕事を覚えていくのである。またある時、こんなことがあった。野球部では初心者やどんなに下手な選手でも、全ての選手が練習試合の時に出場する。1度は試合に出場するのであるが、ある3年生のレギュラーの選手が「先生、まだ1年生の○○が出ていませんが」と言ってきたことがあった。

獨協埼玉高校野球部の活動を通じて、後輩であろうと補欠の選手であろうと相手を思いやる気持ちをもつて卒業していくというところは、昔も今もかわらない野球部の最高の伝統であると思う。これは、これから入部してくる部員たちにも必ず受け継いでいって

今日は卒業生数人で数十年前ぶりに先生を囲み、昔話に花を咲かせました。気がつくとも既に、先生とお会いした年齢(38歳)になつてしまいました。やっぱりそのときの先生の方が賢いように思います。久しぶりにお会いした先生は白髪が目立ちましたが、飲むとかなり艶舌になり、昔と変わらぬお元氣なままで安心いたしました。またぜひ飲みに行きましょう。

(1期生 友野行晴)



らいたいことである。

最後になってしまったが、監督、佐藤先生の最近の様子を報告し結びとしたい。現在も熱血監督として毎日元気にノックバットを振って選手を指導している。甲子園での勝利監督インタビューの練習は毎日欠かしていないようで、いつの日か練習の成果を発揮できる日がくることをOBの方々と一緒にテレビの前で待ちたいと思う。

野球部OBの方々へ  
ぜひグラウンドへ足を運んで後輩たちに微をそばしてやってください。大会・練習試合の日程は野球部ホームページ(<http://www.gem.hi-ho.ne.jp/dotamas/>)に掲載しています。お待ちしております。

最後に  
去る、7月13日(日)、第85回全国高等学校野球選手権記念埼玉大会、対花咲徳栄高校戦が行われました。今春のセンバツ甲子園大会ベスト8の強豪を相手に最後まで粘り強く戦いましたが、惜しくも3-2でサヨナラ負けという結果になりました。雨の中、多くの卒業生や野球部OBの方々に応援をいただきました。この紙面をかりて御礼申し上げます。ありがとうございました。

3期生・武田信一



## 第5回 教員座談会

今回のテーマは体育祭。中学設立以来、中高合同開催でしたが、今年から中高別開催となります。

司会 今までで一番思い出に残る体育祭をあげていただければと思います。

藤田 この学校に来てすぐに体育祭の委員長をやらなさいと言われたのが僕にとっては一番の思い出ですね。何でもやっていいと言われたので、開会式に入場行進を取り入れたら、男女共学(3期)の競技に組体操をやったりしました。学校に来たばかりでやりづらかったです。学校に来たばかりでやりづらかったです。学校に来たばかりでやりづらかったです。

須藤 4期生が3年生の時は悪天候のため午前中だけで、午後は綱引きをやって終わってしまった。あとは、借り物競走(スピードファッショ)では、女の子たちに真剣なまなざしで見られて大変だった。最後は女の子と手をつないで走るんですよ。確か1位で入ったと思う。

長沼 そうそう、担任が仮装させられるんですよ。「ハワイの花嫁さん」とか訳のわからないものにされた記憶がありますよ。

須藤 担任がモデルになって、仮装したね。紀内さんの「レレレのおじさん」とか。

藤田 第5回から借り物競走がありましたね。担任集団がフィールドに一緒に並んで、女子生徒たちに着せ替えさせられるんですよ。僕も変なカッコしたのは覚えてますよ。ダンサーみたいなタイツ着せられてさ。



白瀧 自分たちでグループを組むという選抜のリレーがあったんですが、やる気の無い生徒が何人かいて、彼らを引っ張っていった感じが、おどろおどろしい記憶がありましたね。

司会 前は確か誰も参加していいというリレーがありましたよ。

長沼 僕は競技で印象に残っているのは、酒井さんが生徒の時にやった「ピーターパン」とか、依田さんの「マリリンモンロー」とか。あと、とある教員のだじやれ競技で、「ベニヤの娘」というのがあって、ベニヤ板の上に女子のつかって引張るといのがあった。それが最初の頃はベニヤ板がパン割れて競技にならない。やはりちゃんと実験してからやるべきだな。

それと用具が大変だった。玉入れの玉を猫がかじったとか、子供を産んで死骸が混ざっていたとか、おどろおどろしい話まであった。

司会 もう既に無くなって復活させたい種目、あるいは今もある協会の名目種目についてお話しして頂きたいと思っています。僕が生徒の時はTSリレーといって、教師(ティーチャー)と生徒(スチューデント)のリレーなど以前は先生と生徒と一緒にやる種目があったような気がするんですが。

長沼 みんなでやると怪我をする人が入るから、やらなくなりました。若い人が入ってくればね。塩崎さんがいた頃は、教員チームも早かったもんね。

須藤 塩崎さんがいて、佐藤(敦)さんがいたでしょ。だから早かった。

司会 そういうことも考えてそれでも一緒に楽しく出来る種目を考えてみたいと思います。それは先ほど話にできた仮装について話していただきたくないので、仮装は何期から何期まであったんでしょうか。僕らの頃の13期もありました。

酒井 僕らの時7期もありました。

白瀧 安藤先生が体育祭の委員長になった年からじゃないかな。

司会 先生方はどんな仮装をやったんですか。

白瀧 私は恥ずかしいけどパンツ一枚になって、土人の役をやったことがある。

長沼 教員が仮装したのはクラスで口説かれた人だけ。確か、途中から仮装は全クラスになったでしょ。

司会 さっき話にできた酒井先生の「ピーターパン」とか、依田先生の「マリリンモンロー」は何でそんなに印象に残っているんですか。

長沼 なぜだか良く覚えてないけど。あと矢口先生が「アンパンマン」で、白瀧先生が「ハワイオアフ島の原人」のカッコなんだよね。6期か7期のときだったかな。

須藤 私がデビューしたときは、8期の3年生なんです。で、「蝶」をやる

としたら、三國先生のクラスとだぶってしまっただけで、こっちは「蝶の誕生」にしたんだよね。その前はクラスでやった記憶は無いですね。その後はやった内容は覚えていませんよ。

酒井 アルバムとかで体育祭の写真がありますよ。そこで写っているのはだいたい仮装なんですよ。ただ残っているのは3年のときだけなんです。

長沼 僕だって「おひなさま」か何かやっていた。酒井さんが「白雪姫」をやった物だね。小池先生が「白雪姫」をやった記憶がある。それが、途中から異常に盛り上がりすぎて、須藤さんの「蝶の誕生」くらいから、芸術的になってきたね。

白瀧 ただの行列だったのが、演技が始まるようになったんだよね。

司会 欽ちゃんの仮装大賞みたいな？

須藤 そう、大がかりな仕掛けになってきた。

長沼 「生ビール」とか。頭にシャンブーとかつけて。

白瀧 本部長でも演技を見るようになってきた。「はい、時間」とか。だんだんエスカレートしてきた。

長沼 大変だったんだよ。学校祭とかぶるじゃない。両方は担任が支えきれないから。

司会 何か他にこの先生はこういうのをやったというのがありますか。

長沼 中山さんの「スーパーマリオ」。紀内さんの「レレレのおじさん」。

司会 担任の先生を活かした仮装ですね。

白瀧 まずいなと思ったのは、昭和天皇が亡くなったとき、国旗を揚げたんですね。そのときに仮装で「大葬の礼」をやったのがいたんですね。それを見たとき、あーっと思いました。

藤田 仮装で1時間はかかるから、今のプログラムでは復活は厳しいよ。準備の段階で片づけまで大変だったし。

長沼 集めてからスタートさせるまで大変だった。

藤田 このプログラムはこなさせませんね。

司会 そうですよ。考えてみれば全ク





ラスですよね。  
酒井 飯装は、生徒に何がやりたいか聞いて決まってるんですか。  
白瀬 ホームルームか何かでね。  
長沼 2年生になると1年間見てるから出来たりするんだよ。最初の年ってわかんないじゃない。だからみんなしよがなくて、うちのクラスなんか「オオサンショウウオ」とか言って、ゴミ袋縫ぎ合わせておしまいとか。  
白瀬 学年あがるとだんだんわかってくるよ。  
長沼 (予算は)1万円だったかな。  
白瀬 そんな無いですよ。  
長沼 5千円、3千円かな。  
須藤 私クラス持った3年のとき、10期生のときは「芸術の秋」というのをやった。  
長沼 覚えてる。あれは傑作だった。「日本の庭」とか。  
司会 昔ほどではなくても、ちらっとそういう要素を入れた物を出来たらいいですよ。あそこまでやるのは大変ですけれども。  
長沼 あれはやめるときに、一度やめたら復活できないだろうって言ったもんね。

司会 いろいろな話が聞けましたが、今やっている体育祭について、先生方が感じることを聞かせてほしいのですが。今は、クラスTシャツを作ったり、かぶりものを作ったりで現在風の体育祭になっているとは思っていいですか。  
白瀬 あれはいつからなんですか。飯装が無くなってから位ですか。  
藤田 いや、もう少し新しいんじゃないか。三國先生が体育祭委員長になった頃からクラスTシャツになったね。  
酒井 体育着を染めてる人たちがいたから、それじゃ困るといって。  
司会 そうですね。18期の写真を見るとTシャツ着てたんですね。僕らのときは3年生だけかぶり物じゃないですけど、色のリストバンド着けてたりとか、バンダナ巻いたりした記憶はあるんですね。  
須藤 櫻井先生の頃は入場行進とかあった？  
司会 はいありました。  
須藤 本部席前で一斉に手を挙げたりとかしてたよね。  
司会 やってましたよね。旗とか持って。  
須藤 やっぱ入場行進くらいやってほしいなと思うね。  
司会 そうですよ。  
須藤 今は体育祭がいつ始まったかわからないからね。  
藤田 クラスTシャツはいいね。見栄えも良くなって、華やかになって明るいし。ハチマキ以上にクラスがよくわかるから。  
長沼 ハチマキなしにしてもいいかもね。  
藤田 そうですね。緑と黄緑とかハチマキでは紛らわしいクラスがあるときにはいいよね。  
司会 今年から中学・高校と分かれての体育祭になるので、種目数も少し増やすことができると思うので、昔やってきた物で良いのがあれば今復活させるタイミングとしてはいいかなと思うんですけれども、TSリレーとか。  
長沼 だめだ。それはだめ。1ヶ月前からトレーニングしなきゃ。

司会 1ヶ月じゃ足りないかも。  
長沼 トレーニング中に事故に遭うかもしれないし。  
白瀬 やっぱ年齢別にハンディか何か背負わせて貰わないと。若い先生は荷物背負わすとか。  
長沼 二人三脚でアンカーが担任になるとか。  
須藤 何でもいいんだけど、クラスの団結とか、集団で、団体のリレーがいいよね。やっぱ見て盛りが上がるもんね。個人がダーツと走っているよりも、最後のリレーは盛り上がるけど、集団で学年別のリレーがあるとやっぱ盛り上がりやすいよ。  
藤田 団体競技が2つあるんだけど、3つめがないんですよ。ホームルームを使ってやる、ムカデと大綱なんか本当に燃えて練習するじゃない。これは最高ですよ。  
長沼 ある程度いろいろやって残ってきただけだからね。今あるものはね。  
藤田 中学はやっぱこれから作っていく上で、競技的なもの、楽しいもの、発表種目をやってほしいですね。高校は開会式の行進はやればやってもいいけど、中学はやってほしいですね。  
司会 組体操とダンスも。  
長沼 組体操で中学は怪我するな。  
白瀬 間違いない練習の段階で。  
藤田 中学生だって小学校でやってきてるから、難しくもないものをやれば...。  
酒井 2段くらいいいよ。  
司会 2段じゃ2人と1人ですよ。  
長沼 それ、組体操じゃないんじゃないの。ずっと同じでもないんだらうから、何か入れて残していくものが出来れば一番良いんだらうね。1つ2つは入れ替えていければいいんだらうね。  
司会 今年はあるかどうかかわかりませんが、地区対抗リレーなんて新しい種目もできてはいるんですけどね。  
須藤 3年くらい前からかな、生徒が主導権握ったでしょ。その前は教員にすのか生徒にするのかどっちつかずのときがあったけれど、今生徒の方にほ

とんど実権を渡した段階で生徒の方が満足してるもんね。だから今の形を踏襲して彼らもやっていけると思う。  
藤田 だって、体育委員になりたいというのがいつばいでてきたもんね。どんどんでくるんだからすこいよね。  
司会 特に3年生なんかは最後盛り上がるというふうな雰囲気ありますもんね。やっぱ3年生の体育祭委員長の最後の言葉は感動を呼びますよね。  
白瀬 中学校で飯装やろうか。  
司会 それは良いかもじゃありませんね。  
白瀬 中学だとおもしろくやってくるだろうね。  
司会 一生懸命やるでしょうからね。  
長沼 余裕があるならですけど、学校祭って結構中学校はまじめに取り組ませるでしょ。だからその分発散させてやるのもいいかもしれないけど、でも中学校でやると担任丸抱えになるから、担任が大変。まだ若いからいいけど。  
司会 (若く)なくなる日が来るけど。  
白瀬 先輩の国府田先生は作るの好きだからね。  
須藤 みんなが40代50代に入ったら大変だよ。  
司会 中学校だけの体育祭は今年が第1回ということになりますので、どんな体育祭になるのか楽しみですね。今日いろいろなお話を聞くことが出来ました。貴重なお時間を頂いてありがとうございました。

- 参加者
- 藤田 敏雄先生
  - 須藤 憲視先生
  - 長沼 孝史先生
  - 白瀬 正久先生
  - 酒井 直樹先生 (7期生 平成13年)
  - 司会
  - 櫻井 広仁先生 (13期生 平成13年)



## 第24回 蛙鳴祭 9月20日(土)・21日(日)

今年のテーマは

## 「燃焼系」

蛙鳴祭実行委員会より

### ●「燃焼系」とは...

一番の意味は「文化祭で燃え尽きること」です。そして、この文化祭がみんながはじける源になればいいなという願いもこめられています。獨協生全員が文化祭で燃えつきます!

### ●全校企画は「生徒全員の手形を集めて、モニュメントをつくる計画です!」

昨年から、全校生徒で取り組む全校企画を行っています。今年は、デザインを全校生徒で決め、大きなモニュメントを作る計画です。是非、見てください!

### ●今年の蛙鳴祭は...

恒例の部活による食品団体はもちろんのこと、今年はPTAによるカレー屋さんもあります。中学生は劇が多く、高校生はお化け屋敷などが多いです。体育館ステージでは、文化部の発表もあり、蛙鳴祭を盛り上げてくれます。

●**中学入試説明会** 9月20日(土)  
小ホール 10:00~11:00  
(中学棟1F) 13:00~14:00

●**高校入試説明会** 9月21日(日)  
小ホール 10:00~11:00  
(中学棟1F)

## もちろん、同窓会も参加します!!

●例年どおり、講演会などの企画を用意してお待ちしておりますので、卒業生の皆様も御家族づれでお越し下さい。

田中 弓子 (15)	竹内 友洋 (13)	櫻井 広仁 (13)	金久保佳代 (12)	川島 信也 (9)	水口 将豆 (8)	大岩 幸代 (5)	橋本 行正 (4)	奥泉 裕子 (4)	石川 和美 (3)	桑島 優紀 (3)	武田 信一 (3)	吉本 博之 (3)	水谷 功 (3)	杉崎 良樹 (1)	片桐 信信 (1)
山口 麻里 (20)	坂本 育美 (18)	岡 淳一郎 (18)	仲田 英起 (17)	石田 大介 (16)	伊勢 陽子 (10)	井上佐友子 (8)	高田 晶子 (10)	小平 茂 (5)	玉山 栄一 (1)	永島 健次 (3)	森脇 淳 (5)	瀬戸てるみ (8)	坂井 陽介 (11)	友野 行晴 (1)	酒井 直樹 (7)

幹事	田ノ下紀子 (15)	永井 穂 (16)	深瀬 和之 (16)	植原 浩美 (18)	岡 悦史 (19)	大友 友紀 (19)	矢作 綾那 (19)	佐々木頼太 (20)	小口 晃也 (20)	大山みどり (20)	五十嵐 玄 (21)	池田ユリカ (21)	深津 有希 (21)	丸川 玲子 (21)	吉野 純子 (21)
----	------------	-----------	------------	------------	-----------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------

理事	玉山 栄一 (1)	永島 健次 (3)	森脇 淳 (5)	瀬戸てるみ (8)	坂井 陽介 (11)	友野 行晴 (1)	酒井 直樹 (7)		
事務局	小平 茂 (5)	高田 晶子 (10)	井上佐友子 (8)	伊勢 陽子 (10)	石田 大介 (16)	仲田 英起 (17)	岡 淳一郎 (18)	坂本 育美 (18)	山口 麻里 (20)

### 同窓会役員人事紹介

(括弧内数字は卒業年度)

### 同窓会名簿の更新について

同窓会名簿の更新につきまして、現在は、幹事会において検討中ではありますが、個人情報保護の観点から、具体的な更新日時を決定しておりません。あらかじめご了承ください。

### 同窓会からのお願い

①同窓会運営に関するご意見がありましたら、上記の理事・事務局・幹事までご連絡ください。またできる限り、総会に出席していただき、その場で意見を寄せただけであれば幸いです。よろしくお願いたします。

②同窓生で同窓会からの郵便物が届かない方がいらつしゃいましたら、電話・FAX・メール等で事務局まで情報をお寄せ下さい。後で同窓会会報等を郵送いたします。ご協力よろしくお願いたします。

③住所などで変更がございましたら、獨協埼玉高等学校同窓会までお知らせください。

※最近、同窓会を名乗り、電話で個人情報聞き出すようしている団体があるようです。本同窓会では、電話での問い合わせは一切しておりませんので、ご注意下さい。

### 獨協埼玉高校同窓会連絡先

〒343-0037  
埼玉県越谷市大字恩間新田字寺前316  
☎048-977-5441 ☎048-977-2031  
e-mail:dosokai@dokkyo-saitama.ed.jp  
URL http://www.dokkyo-saitama.ed.jp/

### 会費納入のお願い

平成11年度の卒業生より、同窓会会則に従い正式に卒業年度に、終身会費を納めていただくことになりました。つきましては、既に卒業された同窓生にも終身会費(1万円)を納入していただきたく、納入票を同封させていただきました。同窓会の運営資金となります。趣旨をご理解の上、ご協力よろしくお願いたします。

※既にお振込みいただいた方には振込用紙は封入されておりません。